

Kyuuukoku Monthly Report

救国月報

「2026年2月の世界と日本」

特集

「衆議院選挙を総括する」

陛下の野党
安全2/3
憲法改正
減税

救国
シンクタンク

はじめに

救国シンクタンクでは、二つの点に留意している。一つは、世の多くの人が関心を持つ事象に対し、的確な分析を加えること。もう一つは、世間で注目されないが、重要な政策を提示すること。この二つの分析と提言を通し、日本が救国に向かう政策の方向性を示すべく、活動している。

今月号も前号に続き、注目ニュースを絞り込み研究員のコメントの字数を増やし「世界と日本をよむ視点」をより多く提供する。今月の特集は、「衆議院選挙を総括する」である。2026年の通常国会招集日の1月23日に衆議院を解散し、1月27日公示、2月8日投開票の日程で行われた衆議院選挙であった。高市首相は選挙の「大義」を①自公から自維への連立枠組み変更の是非、②積極財政・安保強化など新方針への信任、③高市総理自身への信任、の3点を前面に掲げ、結果は自民党の圧勝となった。

そこで「衆議院選挙を総括する」として5つの論点を述べる。渡瀬研究員が「与党で3分の2の意味」として与党は力強く政策を推進すべきことを強調する。倉山所長が「野党第一党の存在意義とは？」と題して、健全な国会運営には野党が「陛下の野党」であるべきことを鋭く述べる。内藤研究員は「枝野の落選を思う」と、選挙は落選運動でもあることを強調してきた独自の視点で総括する。小川が「安全保障政策は？」として与党の安全保障政策が国民にどのように評価されたかを総括する。そして、最後に金子研究員が立候補者の視点で「衆議院選挙を戦って」と選挙戦を振り返る。

特集に続いて、「株価と相場で世界と日本の動きを読む」では金子研究員が復活する。国際情勢は、絞り込んだ海外ニュースを元に研究員による分析を中心に展開する。米国の動向については、トランプ政権の外交・安保政策及び経済政策などを継続的な視点から分析・予測する。台湾・中国情勢については、台湾の国防努力を述べ中国の軍事力の変化等を等身大に把握しその動向をよむ。ウクライナ情勢に関しては、米国の仲介による停戦交渉の進展を分析する。北朝鮮情勢に関しは軍事力強化の方向性を述べその意図を分析する。中南米情勢では、ベネズエラのその後とメキシコ問題を分析する。米国の最優先地域である中南米諸国の分析は、日本では報じられないが重要なテーマである。

国内情勢では、倉山所長が選挙後の「皇位継承問題」の現状について分析する。日本で唯一倉山所長にしかできない分析である。次いで「経済財政政策」に関して、日銀人事への評価を含め経済成長に向けた動きについて分析する。「日本の安全保障」に関しては選挙結果が防衛力強化に対する効果を分析する。

日本で最も妥当かつ冷静なニュース解説を届けているとの自負を持って、今月号も救国シンクタンクより『救国月報』をお届けする。会員諸氏の役に立てば幸いである。

救国月報編集長 小川清史

※本月報の感想をお寄せください。感想の宛先：<https://kyuukoku.com/contact/>

はじめに	1
------------	---

※下線部をクリックすると各項にジャンプします

1. 特集「衆議院選挙を総括する」

論点1 自民党が衆議院で単独3分の2を獲得した意義 ——日本政治の「構造的転換点」 としての意味	【渡瀬】	3
論点2 野党第一党の存在意義とは？～大人の言論への脱皮を	【倉山】	5
論点3 「枝野落選」に思う	【内藤】	7
論点4 安全保障政策は？	【小川】	9
論点5 衆議院選挙を戦って	【金子】	11

2. 株価と相場で世界と日本の動きを読む 【金子】

日本の株価（日経平均）	13
米ドル/円相場	14

3. 国際ニュース

① 米国の深層をよむ	15
② 台湾・中国情勢をよむ	21
③ ウクライナ情勢をよむ	26
④ 北朝鮮情勢をよむ	28
⑤ 中南米情勢をよむ	30

4. 国内ニュース

① 皇位継承問題の行方	32
② 経済財政政策をよむ	34
③ あるべき国会運営	38
④ 日本の安全保障政策をよむ	40

ご入会のご案内

ご入会いただくと毎月15日に救国月報をお届け致します。
貴重な情報満載の過去の月報もすべてお読み頂けます。

【会員ページ】 <https://kyuukoku.com/account/>

【ご入会案内】 <https://kyuukoku.com/support/>

救国シンクタンクの理念に賛同し、活動にご協力いただける方は
ご入会の手続きをお願い致します。

救国シンクタンクでは情勢分析研究会の分析を通じて
政策の「提言、普及、実現」に努めてまいります。